

34組御遠忌通信

今、いのちがあなたを生きている

— 宗祖としての親鸞聖人に会う —



第5号

2010年3月15日発行

34組からのお知らせ

「34組」とは静岡から藤枝・島田に在る真宗大谷派(東本願寺)寺院の集まりです。34組では、同朋教室や推進員養成講座など一寺院の枠組みを超えた共同教化に主眼を置き、当該地域のご門徒を中心対象に様々な教化活動に取り組んでいます。34組の具体的な活動については、当通信または各ご寺院にてお知らせしています。皆様のご理解と、ご参加をお願い申し上げます。

公開講座（入会金不要）

「歎異抄」を読む

親鸞の言葉に聞く



最も読まれ続けている仏教書の一つ「歎異抄」を通して親鸞の言葉にふれ、現代に生きる私たちの問題を明らかにしていきます。親鸞について、また「歎異抄」がなぜ書かれたのかも解説します。

講師 一楽 真

（大谷大学教授）

◆受講日 6月22日（火） 15:00～16:30

◆受講料 1,500円

◆持ち物 歎異抄（岩波文庫）当日会場にて販売いたします

（いちらくまこと）1957年、石川県生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業、大谷大学大学院博士後期課程満期退学（真宗学専攻）。現在、大谷大学教授。著書に、『親鸞聖人に学ぶ』『この世を生きる念仏』（東本願寺）、『大無量寿経講義—尊者阿難、座より起ち—』『四十八願概説—法蔵菩薩の願いに聞く—』（文栄堂）など。論文に、「顕真実教の明証」「如来二種の回向」「蓮如における王法」など。

*今後の予定 9月13日（月） 序 『歎異抄』はなぜ書かれたか
12月 6日（月） 第1章 人間の願いと阿弥陀仏の本願

お問い合わせ・お申込は
SBS学苑 パルシェ校 〒420-0851 静岡市葵区黒金町4-9 パルシェ7F
Tel.054(253)1221 Fax054(255)8683
http://www.sbsgakuen.com/

34組寺院

静岡別院	静岡市葵区屋形町 10	054-253-1737
敬信寺	島田市旗指 3050-1	0547-37-2502
蓮生寺	藤枝市本町 1-3-31	054-641-2156
常光寺	静岡市葵区常磐町 2-4-3	054-252-8930
西敬寺	静岡市駿河区大谷 5105	054-237-5466
福泉寺	静岡市葵区大工町 4-1	054-252-3732
明泉寺	静岡市葵区上石町 3-1	054-253-1734
願勝寺	静岡市葵区車町 50	054-253-3665
真勝寺	静岡市葵区長沼 2-18-23	054-261-3328
明通寺	静岡市清水区入江 3-6-30	054-367-0195
専念寺	静岡市清水区上 1-10-14	054-352-6445
専長寺		

思い起こすまゝに



静岡別院門徒
馬淵 慶胤

表題は「三十四組御遠忌通信」とありますので宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌に関することを書くべきでしょうが、第四号までの筆者のように難しい事を書く知識は無いので本来の趣旨とは関係なく思い起こすまゝに書きました。

七五〇回の御遠忌もいよいよ来年になりました。三十四組においては二班に分けて参拝するようですが、これを仕切られる組長さん始め各寺のご住職も大変ご苦労な事とお察しいたします。

本願寺聖人傳繪上
夫聖人の俗姓を藤原氏天日
屋根尊二十一世竹苗重天日



七〇〇回の御遠忌が厳修されたのは昭和三十六年との記述がありました。私は昭和三十五年三月に京都より静岡に引越して来ましたので本山の山門の前に高札が掲示されていた事だけは記憶にあります。真宗にとつて最も重要な儀式法要である行事であるとは全く知りませんでした。私の無知蒙昧に唯々恥じいるばかりです。

小学生の頃より何故か京都駅から北大路通りまで真つ直ぐに北に上っている烏丸通りが七条通りから花屋町通りまで東本願寺の

前だけが東に迂回していることに不思議に思っていました。迂回路には昔は市電が、現在はバスやタクシーや自家用車が通り直線上の通りには本山へ参拝の観光バスが駐車しております。ある時、輪番に尋ねたところ本山の前は本願寺の所在地である事を聞き納得しました。

迂回路について思い出す事があります。太平洋戦争中必勝祈願の為昭和天皇が伊勢神宮へ行幸される時は京都に見えお迎えすることがありました。当時中学生であった私の学校のお迎え

御遠忌に向けて



福泉寺住職 六山 尚樹

終見ていたと話をしてくれました。弟は大学在学中体操部に所属し毎年大学選手権では第五位から第七位に甘んじておりました。魔がさしたのでしようか開口部より本足場に飛び移る際丸太を鉄棒代わりと思ひ掴もうとして握り損ね側頭部を強打しながらも下段の横地の丸太に必死に掴み態勢を立て直すも暫くして力尽き落下したとの事でした。この話を聞いた年は奇しくも三十三回忌の年であったと思ひます。

多くのご住職・門徒さんと話し合える静岡別院に移った事に非常に嬉しく思っております。来年の七五〇回の御遠忌には健康に留意して多くの門徒さんと参詣できることを楽しみにしております。

『歎異抄』第二二条に「おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御ころさし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり」と書かれた文章がある。

私たちは七百五十年前に亡くなられた宗祖親鸞聖人の御遠忌をお迎えし、聖人の遺徳をしのぶ法要に参拝する計画もあるが、私たちにとつてどんな意味があるのか。検証していかねばならないと思う。

私たちにとつて往生極楽のみちとはどんな道なのか。

する場所が本山の前の迂回路でした。明治憲法により神格化された天皇といえども本願寺の私有地を通過されなかつたこと、また箱型の自動車には侍従武官長が天皇と対面して乗っておられた姿を見て異様な感じを

持ったことを今更ながら思い起こしました。静岡別院にお世話になつたのは弟が亡くなった昭和三十三年六月からと思ひます。それ故に父の仕事を継ぐべく京都より静岡へ転居しました。昭和七年申年生まれの弟が中部電力の工事現場で丸太の本足場に係わ

豊かになつてきた現代社会の中で宗教に何を求めているのか。今、自分が何を求めているのか分らず、豊かになるという事も楽しく生活するための手段のほ

ずなのについての間にか豊かになることが目的になつてきている。自分の都合のいいのみちが自分の都合のいいみちといれかわっているの

である。コマージュナルなんかで宣伝されているものも自分が生きていくためのものが、いつの間にかそのものために生きていくような錯覚に陥るのである。新しいものが出るそれがほしくなる。買わなくてはならないみたい

に洗脳されてくるのである。念仏を称えることが往生極楽のみちのはずなのに、

別にどこかに道があるようにな捉え方がされてきている。親鸞聖人は、それは私にはわからないからよそのお坊さんに聞いてくれと言われたという。

私たちは、どんなに豊かになつたとしてもそれに満足できずに必ず不足不満がわいてくるのであるが、それが自覚できない。なにかのせいにするのである。家族であったり、他人であったり、先祖さんであったりする

のである。そういうわが身の在り方を気づかせていただくことが大切なことであると生涯をかけて歩まれた聖人のみちを私たちは学んでいく使命がある。

今、いのちがあなたを
生きている